

2月えんだより

2018年2月1日

2017年度年間聖句：

「あなたがたは神に愛されている子どもです」

エフェソの信徒への手紙5章1節

2月聖句：

「愛はすべてを完成させるきずなです」

コロサイの信徒への手紙3章14節

一年で一番寒い季節を迎えています。かといって「子どもは風の子」というわけではありませんが、寒くても園庭や公園に出かけたり、冬の環境でも外で遊んだり、身体を動かすことは、成長にとっても大切なこと。保育者も寒さに負けじと着込んで一緒に外に出ますが、子どもたちは身体を動かす喜びをこの季節にも感じて過ごしています。寒い寒いからとて、大事をとって室内ばかりで過ごしたり、外に出てもこもこに着込んで過ごしたりしていると、育ちが豊かな貴重な時に、心を身体を甘やかしてしまうと、豊かな成長をふいにしてしまうこととなります。保育者は心を鬼？にして、自分にも叱咤激励を送りながら、外の遊びも大切にしてこの季節を過ごします。

今、日本の教育が大きく変わろうとしています。「生きる力」をよりよく育てていくために、学習内容もですが、新しい時代に必要な力、主体性や知識をもとに考える力、資質・能力が育つ教育とは何かを問いつつ新たな取り組みとして、学校での教育内容も、例えば大学入試など、すべての見直しが行われています。それに先行して、国の示す保育所・幼稚園・認定こども園の指針・要領がこの春より変更となります。大改革の一步ですので、今、園でもどのようなカリキュラムが必要か検討を重ねているところです。ただ今までに保育園で大切してきたことと大きく変わるものではないのではと感じています。

保育園の中にはいろんな子どもの表情があります。笑ったり、怒ったり、泣いたり。でも泣いているからといっていつも同じように保育者は対応をしません。しっかりと子どもを抱きしめてあげるとき、泣いていても知らん顔をしながら自分で立ち直ろうとするのを待つとき、時には泣いているからといっても行いを許さずしっかりと子どもに対峙するとき。その時の子どもの心を大切にすることも大事ですが、先の成長を見据えたかわりを考えることが何より肝要であると感じます。本当に子どものこと、子どもたちのこと、そして子どもたちが創っていく未来のことを鑑みながら、何を大切にすることが問われています。こうした行為の根底に、真に子どものことを思う「愛」が必要であると感じています。これからの時代に求められることも、今までこの保育園が大切にしてきたものも大きく変わるものでなく、相手の今も未来も大切に愛し、かわる営みが、子どもたちの育ちに何より大切であるものだとし、歩んでまいります。

| 月主題 | できたよ | じっくりと |
|-------|---|--|
| 月のねがい | 乳児（0.1.2歳児） | 幼児（3.4.5歳児） |
| | <ul style="list-style-type: none"> 冬の遊びを楽しむ あそびや生活の中で、できたことを喜んだり、やってみたいという気持ちを待つ 保育者や友だちと一緒にあそぶことを喜ぶ 寒い冬を元気に過ごす | <ul style="list-style-type: none"> 色々なことに挑戦したり、様々な経験をし、工夫したり試したり取り組む 仲間と一緒にお互いの意見を言い合ったりしながらイメージを共有して遊ぶ 寒さの中で守られている生命について知る |